

おわりに

原稿を書き進める中で、改めて管理職という役職の奥深さと、そのやりがいや使命感について深く考えさせられました。

管理職は、単に学校や組織を運営する役割を担うだけではありません。学校全体の雰囲気や教職員、児童生徒、保護者、地域など、さまざまなところに影響を及ぼす、非常に責任の重い役職です。その一方で、自分の思い描く学校や教育を実現し、自らの手で変化を生み出していくことのできる喜びや達成感もあります。「大変だけれど、それ以上にやりがいのある仕事だ」というのが、私の偽らざる実感です。

本書では、管理職の道へ進むことを誘導するような表現はできるだけ避け、あくまで「管理職の道を考え始めた人」に向けて、中立的な立場で書くことを心がけました。本書を読み進める中で、「管理職を目指したい」と決意を新たにした方もいれば、「自分には向いていないかもしれない」と思い直した方もいらっしゃるでしょう。私は、そのどちらの決断も等しく価値があるものだと考えています。

原稿を書き終えた後で、教員をしている親友に「ちょっと読んでみてほしい」とお願いをしました。翌日に返ってきた感想は、「読んだだけでおなか一杯になる」というものでした。

そのとおりかもしれません。管理職の置かれている現実を正直に伝えようとすると、どうしても内容が重たくなってしまいます。しかし、嘘や綺麗事を並べ立てて、恰好をつけるようなことはしたく

ありませんでした。

管理職への道に進むかどうかという選択は、その後の教師人生、ひいては一生を左右する大きな決断です。だからこそ、管理職という立場や仕事の厳しさだけでなく、自分が感じてきた本音も織り交ぜながら、正直に書かせていただきました。私自身、さまざまな挫折や苦しみを経験してきましたし、周囲の支えがあったからこそ、これまで管理職を務めてくることができました。

本書が、管理職の道を考え始めた方々の迷いや悩みを払拭し、どの道を進むにしても、その背中をそっと押すものとなれば幸いです。また、ご自身の管理職としての適性を見極める一助となることを願っています。

そして、皆様に何よりも大切にしてほしいのは、自分の人生を「どう生きるか」「どう幸せなものにしていくか」ということです。管理職の道に進むことが、すべての人にとって幸福な選択であるとは限りません。ご自身の価値観や哲学、そして人生の目標とじっくり照らし合わせながら、後悔のない選択を導き出していただければと思います。

皆様のこれからの人生が、幸せと充実で満ちたものであることを心より応援しております。

本書の出版にあたり、ほんの森出版の皆様、特に小林敏史様には格別の支援を賜りました。心より感謝申し上げます。

春野 伸一